

コスモスネット

人権政策課 ☎072-433-7160

みんな違うから優しくなれる ～それぞれの違いを大切に～

昨年11月、東京で「デフリンピック(きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック)」が開催されました。デフリンピックでは、スタートの合図に音ではなく光を使うなど、競技者が安心して力を発揮できるよう、視覚的な工夫が数多く取り入れられています。こうした工夫(配慮)は、特別なものではなく、社会の中にある“多様性”に寄り添ったものの一つです。

私たちの暮らすまちにも、さまざまな特性や背景を持つ人がいます。多様性には、体の特性だけでなく、文化的背景や性のあり方など、外からは見えにくい“心の違い”も含まれます。障害の有無・文化の違い・性別や性的指向・性自認など、一人ひとりの違いを尊重する姿勢が、暮らしやすい社会へつながります。

●聴覚障害・発達障害のある人の割合

見えない障害は、外見からは分かりにくく、気づかれにくいことがあります。

聴覚障害 約10% 発達障害 約8.8%

出典：広報誌『厚生労働』2024年10月号

出典：文部科学省(2022年)

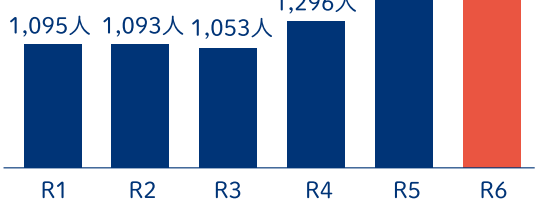
●貝塚市の外国人住民の割合

貝塚市では、さまざまな国や文化的背景をもつ外国籍の方も、地域の中で共に暮らしています。

貝塚市における外国人住民の割合 2.8%

(令和7年12月末貝塚市住民基本台帳人口より)

貝塚市における外国人住民の推移

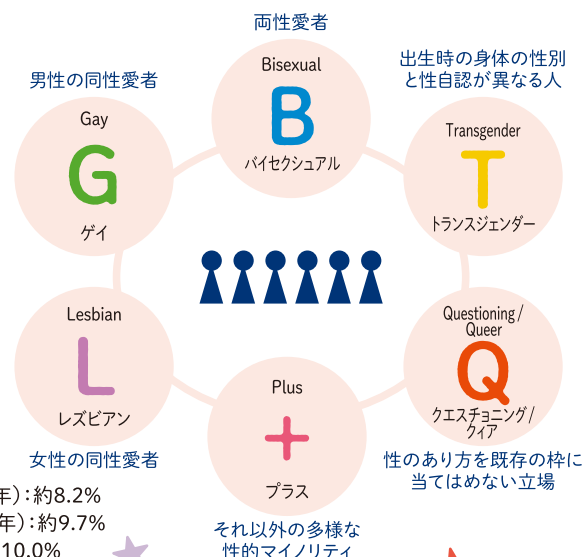


●LGBTQ+の人の割合

調査機関・調査方法によってデータに差はありますが

現在では約10%と推測されています。

左利きやAB型の方とほぼ同じ割合なんだね



大阪市 無作為抽出調査(2019年):約8.2%
電通ダイバーシティラボ(2023年):約9.7%
LGBT総合研究所(2019年):約10.0%

★日常の中で意識したいこと

日常生活の中には、車いすや白杖などの「見える違い」と聴覚障害や発達障害、文化の違い、性や性別に関する悩みなどの「見えない違い」があります。

こうしたさまざまな違いに気づき、意識することが、日常の中でできる配慮の第一歩です。

気にかける

- 障害には、見えにくい特性もあることを意識する
- 国や地域によって、文化や習慣が異なることを意識する
- 性別で役割を決めつけない



心がける



- 相手にとって分かりやすい言葉を使う
- 困っている人がいれば「何かお手伝いできますか?」と声をかける
- 不適切な言い方があったときは「その言い方はよくない」と伝える

関わってみる

- 書籍やイベントなどから、多様性について知る
- 多様性で気になることを身近な人と話してみる
- レインボーグッズを身につけ、LGBTQ+の方を応援してみる



貝塚市の取組み

LGBTQ+に関するセミナーを開催し、男女共同参画推進研究会が作成したALLY(アライ)バッジを受講者に配布するなど啓発に努めています。

●ALLY(アライ)バッジ

LGBTQ+の方への理解と支援の意思を示すもので、職員や市民が身につけることでALLYの輪が広がっていきます。



★多様な違いを認め合い、人にやさしいまちへ★